

水産庁

プレスリリース

平成22年6月9日
水産庁

「2010年度 第二期 北西太平洋鯨類捕獲調査(JARPNII)沿岸域鯨類捕獲調査(三陸沖)」の終了について

本年度の「第二期 北西太平洋鯨類捕獲調査(JARPNII)沿岸域鯨類捕獲調査(三陸沖)」が、6月7日(月曜日)に終了しましたので、その成果概要について報告します。

1. 調査の目的・調査方法

鯨類の捕食が漁業資源に与える影響評価に関するデータを収集するため、4隻の標本採集船が鮎川港を中心とした半径50マイル海域内でミンククジラの捕獲調査を行い、胃内容物の餌生物種の同定、内容物量の測定、生物学的情報の収集等を行った。

また、餌環境調査船によりあらかじめ設定された調査線上を航走し、計量魚探、トロール網等を使った餌環境調整を行った。

2. 調査概要

- | | |
|-----------|---|
| (1)調査期間 | 4月22日(木曜日)～6月7日(月曜日) |
| (2)調査実施主体 | 一般社団法人地域捕鯨推進協会 |
| (3)調査海域 | 宮城県石巻市鮎川港を中心とした半径50マイル以内の海域 |
| (4)調査船 | 標本採集船4隻、餌環境調査船1隻 |
| (5)調査団編成 | 調査総括 加藤秀弘(東京海洋大学教授) 調査団長 安永玄太/坂東武治((財)日本鯨類研究所)他18名 |
| (6)捕獲頭数 | ミンククジラ45頭 |
| (7)主な発見鯨種 | ミンククジラ、ザトウクジラ及びシャチ |

3. 結果概要

- (1)ミンククジラの発見数は62群、62頭であった。
- (2)捕獲頭数の組成は、雄18頭、平均体長6.02m(4.27-7.77)、雌27頭、平均体長5.16m(3.69-8.45)であった。
- (3)胃内容物については、捕獲された個体のうち36個体から餌生物が観察された。
うち27個体がイカナゴ(メロード)を捕食しており、全体の75%を占めた。
- (4)胃内容物重量は平均27.3kg(1.2-164.6)であった。
- (5)調査期間中の表面水温は、例年より1-2℃低かった。

— お問い合わせ先 —

資源管理部遠洋課
担当者: 捕鯨班 高屋、川村
代表: 03-3502-8111(内線6724)
ダイヤルイン: 03-3502-2443
FAX: 03-3591-5824

[ページトップへ](#)

Copyright:2007 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話:03-3502-8111(代表)

水産庁